

18  
SAT

入選者会場批評会（絵画部・版画部）

4月18日（土）13:00～15:00 参加無料 当日会場にて受け付けます。

授賞式・パーティー

4月18日（土）15:00～17:30

国立新美術館 3F 講堂 参加無料

Reception

## Art Tour



## 春陽展アートツアー

4月25日（土）13:00～14:00 2F 会場入口集合  
参加無料、ポストカードプレゼント

一般の方を対象にした、絵画・版画鑑賞ツアーです。  
春陽会会員の解説を受けながらアートの新たな楽しみ方を発見していただけます。

25  
SAT

## 企画展示

## Exhibits

### ■チャリティー展示——— 2F 休憩室



会員有志による作品の展示、チャリティー販売を行います。  
収益は社会福祉法人NHK厚生文化事業団、日本赤十字社を通じて、社会福祉事業、自然災害復興支援のために寄附します。

### ■春陽会研究会の紹介——— 2F 休憩室

春陽会では全国に研究会を設置し、絵画と版画的啓蒙及び研究活動を行っています。このコーナーではそれぞれの地方研究会をご紹介します。

### ■特別展示——— 3F 展示室

#### 「広田雅久と春陽会」

広田雅久は、油彩画から春陽会版画部会員の勧めにより銅版画を始めました。当初は腐食によるアクアチント技法、後には広田の代名詞となるメゾチント技法によって詩情豊かな作品を多数制作しました。

漆黒の中に浮かび上がる静謐な情景は高く評価され、スウェーデンのノーベル賞顕彰財団から制作依頼を受けるなど、国内外で活躍した作家です。作品と共に完成に至るまでの記録や愛用の道具等を展示します。



## 春陽会について（春陽会小史）

春陽会は1922年（大正11年）、小杉未醒、足立源一郎、倉田白羊、長谷川昇、森田恒友、山本鼎、梅原龍三郎、さらに客員として石井鶴三、今関啓司、岸田劉生、木村荘八、中川一政、萬鉄五郎が参加して、院展洋画部と草土社が合流した団体として創立されました。翌1923年（大正12年）に第1回展が開催され、その後、加山四郎、岡鹿之助、三雲祥之助、高田力蔵等フランス帰朝組に続いて、中谷泰、南大路一、また版画部には長谷川潔、駒井哲郎、清宮質文等、日本美術史に名を刻む多くの画家たちが参加しています。

本会は、戦時中は展覧会の一時中断を余儀なくされましたが、日本の風土と伝統に根ざした個性尊重の「各人主義」に基づく創設以来の理念を確実に受け継ぎながら、藤井令太郎、田中岑、五味秀夫等、新しい才能や感性を受け入れてきました。



現在は絵画部約200名、版画部70名の会員を擁し、全会員による審査、運営により、新しい美術の可能性を模索するべく研鑽を重ねています。また、次世代育成のために、創立以来の伝統である研究会活動の拡充にも取り組み、更なる美術の発展と文化への貢献を目指しています。

春陽会発会当日（大正11年1月11日）

## 春陽会100年史「春陽会史料館」(WEBアーカイブ)

<http://shunyo-archive.com/>

日本美術史の研究に資する目的のため、春陽会が所蔵する創立から現代までのあらゆる記録や資料をデータベースとして公開します。出品目録、印刷・出版物、新聞・雑誌等の掲載記事、音声、写真、動画など、未来に残すべき貴重な資料をデジタル化し、いつでもどこでも検索できるシステムとして構築しました。日本の美術団体としては初めての画期的な試みです。

春陽会事務所（月・水・金 10:00～17:00）  
〒102-0085 千代田区六番町1 番町一番館  
TEL & FAX 03-6380-9145  
shunyo-kai@shunyo-kai.or.jp



春陽会公式HP



春陽会史料館